

中国軍が西部地域の防空を強化

漢和防務評論 20150703 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国は、西部地域の防備にも目配りを怠ってはいません。新疆ウイグル自治区の戦略拠点であるクルレ基地や軍民共用飛行場カシュガルを強化しつつあります。考えてみれば、中国は海洋進出方面に多大の投資を行っているはずですが、イスラム系住民の暴動などが頻々と発生し、またチベット問題が今後どう発展するか分からない状況で、将来を見越した戦略投資と考えられます。

KDR バンコク特電：

KDR は中国が西部国境に近いカシュガルに HQ-9 型長距離地对空ミサイルを配備した形跡を発見した。これは 2014 年のことである。カシュガルは、アフガニスタンとの国境からわずかに 284 KM しか離れていない。中国空軍は、アフガン戦争以来、西部の防空を大々的に強化し、蘭州及び西安に HQ-9 部隊を配備した。カシュガルに HQ-9 を配備したことから中国の防空配備の特徴が分かる。HQ-9 のような長距離地对空ミサイルは、通常、国境地区から 250 KM 手前の縦深位置に配備される。こうすると戦時の機動に有利である。カシュガルは、キルギスタン、タジキスタン国境からそれぞれ 86 KM と 200 KM の距離にある。中国は、この 2 つの旧ソ連国家と大きな利益の衝突はない。このことから、米軍がすでにアフガンから撤退したにもかかわらず、中国軍は依然として西部国境の防空を重視していることが分かる。カシュガル飛行場は完全な軍民共用飛行場で、滑走路の長さは 3200 M、2014 年になって軍用施設の拡張が完成し、新たに軍用のエプロンが建設された。カシュガルは西部における戦略的重要地点であり、総参謀部 3 部は、カシュガルの BAREN 地区に相当大きな信号情報監視ステーションを建設した。この情報監視ステーションは現在運用中であり、キルギスタン、アフガニスタン、タジキスタンの信号情報の監視を行っている。そこには相当大規模なアンテナ群が見られる。中国軍は、防空の防壁としてこの地区に HQ-9 を配備した。885 KM 内側に離れた位置に航空兵第 37 師団のクルレ基地があり、J-11B/BS 戦闘機が駐屯している。一旦戦争が起きますと、クルレ基地の作戦機は、まず最初に西部のカシュガル基地に展開するはずである。したがってカシュガル飛行場は強化され、地对空ミサイル陣地が建設された。クルレ空軍基地は相当大型化しており、30 個の格納庫と完成したばかりの弾薬庫がある。作戦機用の弾薬庫があるかどうかは極めて重要な要素である。飛行場の戦備の等級を示すからである。

カシュガル飛行場の弾薬庫は 2014 年に完成した。和田飛行場も弾薬庫を建設した。KDR は次のように判断している：過去 5 年間、HQ-9 の生産が加速している。毎

年平均、2 個大隊が配備され、HQ-2 が逐次換装されている。現在、主要な戦略方向には少なくとも 1 個大隊の HQ-9 が配備されている。その中で南京軍区が最も多い。四川省と雲南省には未だに S-300、HQ-9 の配備が発見されていない。今回のミャンマー国境紛争で、中国軍が国境の ZHENGKAN に派遣したのは HQ-12 部隊である。ミャンマーも同ミサイル 1 個大隊分を導入している。

以上

訳者註

HQ-9：ロシアの S-300 を参考に国産した長距離地对空ミサイル

HQ-12：ホーク級の国産中距離地对空ミサイル